様式2

平成29年度　自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取商業高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる

今年度の重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける

年度当初					評価結果（ 9 ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・91%の生徒が鳥商に入学して良かったと思っている。（学校生活アンケートより） ・年間無遅刻の生徒は73.0%、遅刻回数は1日平均0.53件人、一人あたり0.56回。 ・95%の生徒が自ら挨拶、正しい身だしなみを実践している（学校生活アンケートより）が、来校者への挨拶、学校外での制服の着こなしについてまだ改善すべき余地がある。 ・95%の保護者が、鳥商は保護者・地域社会から信頼されていると回答。（学校評価アンケートより）	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。	・鳥商ならではの学びのスタイル「知識獲得」→「体験活動」→「実践力の育成」に即した教育活動を継続して実践する。 ・日常生活での挨拶、身だしなみ、規律遵守などを継続して指導する。 ・学校内外での行動・態度について、自身と自校の社会的評価を高める意識を醸成する。	・1年生は4月にビジネス基礎研修を行い、鳥商教育の導入とマナー指導を実施。2，3年生は商業学科集会を開き鳥商での学びと目的を再確認した。 ・挨拶、身だしなみについて、挨拶をせず通り過ぎる生徒や制服の着こなしが整っていない生徒が以前より多く見られる。 ・7月13日（金）に第4回商業教育フォーラムを開催。高崎商業、県立岐阜商業、倉敷商業の3校を招き、各校の特色ある取組みの紹介とシンポジウムをとおして交流を行い、全国レベルの学校の発表の姿に大きな刺激を受けた。 ・鳥商祭においての運営分担、クラス発表の役割分担等生徒一人ひとりが活躍し集団として仲間と協働する場面を設定。 ・9月末までの遅刻は1日平均1．71件、一人あたりO．32回。遅刻した生徒には遅刻連絡カードを提出させ余裕をもっての行動を意識させている。 ・1学期期末考査後に全学年でQUアンケートを実施。気になる生徒についてはSCと連携して対応している。	B	・1年生ビジネス体験実習を10月11日から13日まで実施し、学びの実践の場とする。 ・2年生研修旅行（東京方面）を10月11日から13日まで実施。日本を代表する企業活動の見学をとおして、現在の学びとの関連性や職場で求められる資質についてより深く理解させる。 ・さわやかな挨拶、端正な身だしなみと場に応じた振舞の指導を継続。なぜこれらが必要か考えさせる。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。	・93%の保護者が、生徒は社会に必要なマナー、規範意識等社会に通用する意識や態度が育っていると回答。（学校評価アンケートより） ・90%の生徒が、学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している。（学校生活アンケートより） ・95%の生徒が、安心で安全な学校生活を送っていると感じている。（学校生活アンケートより） ・SCとの面談件数（生徒、保護者、教員）は延べ77件であり、生徒それぞれが安心して学校生活が送れるよう支援している。	・90%以上の生徒が、自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身についている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・学校行事、学年行事など、生徒一人ひとりが集団に貢献する役割を果たし、協働への意識を高められる企画、運営を行う。 ・学校生活アンケート（生徒対象）、学校評価アンケート（保護者対象）を実施する。 ・遅刻カードを活用し時間管理の意識を高める。 ・QUアンケートを実施するとともに、気になる生徒についての情報共有をはかり、SCとの連携を継続して進める。		B	・ビジネス体験実習、研修旅行、鳥商デパートの運営など学年、学校全体で取組む行事の中で、集団として機能するために一人ひとりがどう行動すべきか考え実践させる。 ・学校生活アンケートを実施する。 ・気になる生徒の情報を共有し、SCとも連携しながら対応していく。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・1年ビジネス体験実習（2日間：荒天のため1日短縮）、2年研修旅行（2泊3日東京）、3年鳥商デパート（2日間）を核として、それぞれの事前事後学習を含め、卒業生による進路別講演会、青年会議所員による模擬面接指導、マナー講習会等キャリア教育全体計画に基づく体験活動を全て実施できた。 ・進路LHR、担任との面談、進路別講演会などを実施し、就職先、進学先の決定に役立てている。 ・検定対策補習を計画的に実施した。3年生の全商検定1級取得状況は、3種目以上が85人（81人）取得率は52.5%（42.9%）となり、過去最高を記録。また1級未取得者数3人（16人）は過去最少の数字。（ ）は一昨年実績。 ・3年平日補習、夏季休業期間中に全学年補習、公務員セミナーを実施。冬季休業期間中にも検定対策補習を行った。進学、就職模試も実施し実践力を育成した。1年生希望者を対象に4年制大学見学会を実施。 ・各学年で自己表現学習プログラムを実施。3年生では小論文指導、面接指導を全職員で実施。1，2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、多人数を前にして発表する力を育成した。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率とも100%を達成できた。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身についている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・平成29年度版キャリア教育全体計画に従って体験活動を実施する。 ・自己表現学習プログラムを継続して実施する。講演会等の謝辞を生徒代表に行わせる。 ・各種検定試験に向けて検定週間を計画的に設けるとともに上位級取得を働きかける。 ・進学希望者対象に平日補習を実施する。 ・1年生対象の4年制大学見学会を継続。 ・2年生進学希望者を対象に夏季休業期間中に勉強合宿を実施する予定。 ・就職内定者を対象に就職直前セミナーを実施する。	・各学年とも全体計画の体験活動を予定どおり実施している。1年生は10月11日（水）から13日（金）までのビジネス体験実習、2年生は同期間中の研修旅行に向けて準備を進めている。3年生では進路講演会で進路別（大学、専門学校、民間企業、公務員）に卒業生を招き、それぞれの進路先の説明と高校でやっておくべきことなど具体的な話を聞いた。 ・自己表現学習プログラムを計画に沿って実施中。3年生には面接における自己表現について講演会を実施。また小論文指導、全職員での面接指導を行っている。現在までのところ就職内定、進学合格ともほぼ100%である。 ・9月英語検定週間を設け補習を実施。9月末現在で3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が51人（64）、2種目が54人（40）。（ ）は昨年同期 ・夏季休業期間中に全学年とも補習を実施。3年生は進学希望者を対象に平日補習を実施中。 ・2年生進学希望者対象の勉強セミナーを8月1，2日に実施。参加者の進学意欲を高めた。 ・公務員志望者を対象に8月1，2，3日に公務員セミナーを実施。実践的な内容のプログラムであった。	B	・キャリア教育全体計画に沿って体験活動を実施し、実施後に学んだことを振り返らせる。 ・自己表現プログラムを継続して実施する。講演会での謝辞等生徒に行わせる。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。					C	・検定週間、検定補習を計画し全商検定1級習得の指導を継続する。 ・3年生進学希望者を対象に平日補習を実施。 ・1年生対象の4年制大学見学会を12月4日に実施する。 ・就職内定者対象の直前セミナーを実施。
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が76%。授業に集中できている生徒が81%。（学校生活アンケートより） ・O限体育を毎週水・金に実施。強歩大会を10月21日に実施した。 ・健康教育LHRを実施し運動しやすい体作りを実践。 ・新体力テストで県平均を下回っている項目が16。一昨年度（21）より改善している。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活が送れている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・部活動に全生徒が加入し学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・生活習慣が整っていない生徒へ個別の指導を行う。 ・保健だよりを発行し、熱中症予防、感染症予防など時期に応じた健康管理の啓発を実施中。 ・O限体育を継続実施。新体力テスト結果をもとに授業でも体力向上を図る。 ・強歩大会、商高体操など運動にかかわる行事を継続。	・体調を崩しがちな生徒に対し保健室利用時に生活習慣などを聞き取り、個別に指導している。 ・保健だよりを発行し、熱中症予防、感染症予防など時期に応じた健康管理の啓発を実施中。 ・9月21日（木）に健康教育LHRを実施。歯の健康について伊奈垣学校歯科医に講演いただいた。 ・O限体育を水曜、金曜に実施中。 ・体育祭で1年生全員による商高体操を披露した。強歩大会は10月20日（金）の実施に向けて準備を進めている。	B	・健康アンケートを実施。 ・生活の不規則な生徒への個別指導を継続。 ・保健だよりの発行、保健委員会の広報活動を継続。 ・O限体育を継続。 ・10月20日に強歩大会大会を実施予定。
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・10月平常時の家庭学習時間が39分（51分）と激減した。6月考査前は145分（125分）。（ ）は一昨年度同期。 ・11月17日（木）に授業公開及び研修会を実施。アクティブ・ラーニング型授業が広がりつつあるところ。 ・部活動加入率はほぼ100%。運動部、文化部を問わず上位の大会を目指して活動している。9部が全国大会へ出場。国体には3部活動5名が出場し、3月選抜大会には2部活動8名が出場した。		・6月考査前、10月平常時の家庭学習時間調査を継続。家庭学習と授業との連動を高める。 ・授業改善に関する研修会（授業公開も含む）を実施し、アクティブ・ラーニング型授業の拡大を目指す。 ・各教科で研究授業と事後研修会を実施する。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間（1日あたり）は、1年143分（141分）、2年162分（168分）、3年156分（152分）であった。昨年度と変わらず。（ ）は昨年同期。 ・11月15日（水）に授業改善に関する研修会及び公開を実施予定。アクティブ・ラーニング型授業の浸透を図りつつある。 ・研究授業は未実施。	B	・10月末の一週間（平常時）に自宅学習時間調査を実施。 ・11月15日（水）に外部講師を招いての授業公開と研修会を実施。 ・各教科での研究授業を実施する。
	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねることで、人間的に成長している。			・部活動の全員加入を継続。技量の向上も目指すが、人格形成の場であることを第一とする。また学習との両立を図る。	・前期授業アンケートで予習を行っているとする回答が1年14.2%(−2.6)、2年12.5%(+0.7)、3年7.4%(−9.4)、復習しているとの回答は1年23%(−6.6)、2年19.3%(+2.3)、3年20%(+5.5)となっている。（ ）は昨年度数値との比較 ・部活動の加入率はほぼ100%。いずれの部も中国大会、全国大会を目指して熱心に活動している。9月末の時点で8の部活動が全国大会に出場。	C	・自宅学習について、授業と連動した課題指示などを行う。 ・部活動の支援を継続し、大会成績を全職員で共有する。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、T寧な言葉遣いができる。	・ほとんどの生徒は挨拶、正しい制服の着こなし、場に応じての適切な言葉遣いが実践できているが、学校外での行動や身だしなみについては徹底できていないところがある。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じての適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第24回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸し出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・学校生活のあらゆる場面で指導を継続する。 ・学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催し、外部からの意見を求める。 ・マナーアップ運動等学校外での指導を継続する。	・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等指導している。 ・第1回学校評議員会、学校関係者評価委員会を6月29日（木）に実施。生徒自身による学校活性化が必要との提言をいただいた。	B	・学校生活のあらゆる場面で指導を継続。細かなことにも注意を向ける。 ・第2回学校評議員会、学校関係者評価委員会を11月10日（金）に実施する。授業参観もしていただく。 ・第1回会議の提言をもとに、先進校視察を来年度独自事業で要求する。
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・時間に余裕を持っての行動がはなされている。 ・3年生は講演会でのメモ、面接指導の日程調整、指導のコメント記録など鳥商手帳を十分に活用している。 ・第23回鳥商デパートでは全学年が参加し、売上1,264万円、来場者数9,689名、お客様満足度94.3%といずれも過去最高の成果をあげた。 ・2月末時点での図書貸出冊数は延べ2,407冊。一人あたり4.6冊で一昨年度より減った。授業利用時間数は95時間（一昨年度88時間）		・全校集会での集合指導、行事、授業準備など開始時間に余裕をもって行動できるよう継続して指導する。 ・成果発表会における第24回鳥商デパートへの提言を参考に、さらに高い目標達成を目指す。 ・授業以外でも印刷書物に触れる機会を設け、読書へとつなげる。	・全校集会等での集合状況は概ねよいが、授業前の態勢作りを徹底する必要がある。 ・第24回鳥商デパート経営委員会の発足、設立総会の開催を経て準備を進めている。 ・9月末時点での図書貸し出し冊数は延べ1,870冊。一人あたりにすると3.5冊と昨年度同期と変わらず。授業利用時間数は118時間。（昨年度同期は58時間）	B	・鳥商手帳を活用したスケジュール管理、メモによる記録を励行させる。 ・授業規律をより徹底する。 ・11月6日（月）に鳥商デパートマナー講習会を実施。 ・新着図書の紹介、イベントの計画を継続。
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身についている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・韓国清州女子商業高校との交流は相手校の都合もあり実施できず。 ・6月にモンゴルから、10月には韓国江原道から交流団を迎え交流を行った。 ・韓国江原道児童・生徒派遣事業に生徒2名が参加。 ・全商英語検定1級取得者が11名となり、一昨年度（1名）より大幅に増加した。2級取得者は105名（125名）、3級取得者は527名（510名）であった。（ ）は一昨年度実績。		・国際交流について、新たな交流先を検討する。 ・海外からの訪問団を引き続き積極的に受け入れる。 ・生徒に海外交流の機会を提示し参加を促す。 ・全商英検1級取得を目標にしつつ、英語運用能力を向上させる。また他の英語検定にも挑戦させる。1年生の習熟度別授業（コミュニケーション英語I）を継続。	・新たな交流先候補を検討中。 ・鳥取県−モンゴル中央県交流20周年記念事業により生徒5名がモンゴル中央県を訪問。昨年度来校したフムーン総合学校の生徒と交流を行った。 ・9月実施全商英検合格率は、1級2.9%(17.0%)、2級15.6%(14.4%)、3級84.0%(96.6%)であった。（ ）は昨年度。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰ習熟度別授業を継続して実施中。	C	・英語圏の交流先について検討。 ・海外からの訪問団受け入れ、海外派遣を積極的に推進。 ・12月実施の第59回検定試験に向け、2級取得者の1級受検を勧めつつ対策を実施。日々の授業でも英語運用能力の向上を今後も図る。

［100%］［80%程度］［60%程度］［40%程度］［30%以下］